

奈良市環境基本計画市民ワークショップ第5回分科会 会議録

＜日 時＞ 平成23年4月13日（水）午後7時～

＜場 所＞ 奈良市役所 北棟6階 正庁

＜プログラム＞

1. 開会
2. 代表・副代表あいさつ
3. アンケート調査結果報告
4. 平成23年度の策定スケジュール等について
5. 分科会
 - (1) 課題の整理
 - (2) 分野別将来像の検討
6. その他

＜会議資料＞

- ①【資料1】第5回分科会プログラム
- ②【資料2】市民及び事業者アンケート調査結果報告書（別冊：自由回答集）
- ③【資料3】平成23年度環境基本計画改定スキーム（案）
- ④【資料4】基本計画の体系とワークショップ検討内容
- ⑤【資料5】第4回全体会議及びふりかえりシートで出されたご意見
- ⑥【資料6】分野別将来像の検討について
- ⑦分野別将来像ワークシート
- ⑧第5回分科会 ふりかえりシート

＜出席者＞

【市民ワークショップ委員】出席28名（欠席5名）

池田敏泰、井上聆夫、井上雅由、岡本胤継、梶野博子、上市佳織、北端辰昭、河野元昭、小松弘子、島浩二、清水順子、瀬林傳、田川嘉隆、日月英昭、鶴保謙四郎、中川徹、橋本光男、船本知子、横山亜希子、植本茂、横田好弘、松本忠夫、南垣内貞史、向出佳史、石田美智男、岡野恵子、栗岡理子、村木正義

【事務局】11名

環境政策課 大西、桐山、新井、柴田、油谷、坂崎、平野、村井、吉留、杉田、松本

【コンサル】1名

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 大川

＜傍聴者＞

なし

<会議の概要>

1. 開会

司会（環境政策課 柴田）より、平成 23 年度の事務局員の紹介。高橋課長に代わり大西参事（環境政策課長事務取扱）が、また南田、安宅に代わり平野、杉田が新たに従事する。

【大西参事挨拶】

奈良市の環境基本計画の策定にあたり、5つの分科会に分かれて計画策定に係る様々な施策について議論いただきありがとうございます。

皆様と共に、基本計画をより良いものにしていきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。本日は分野別に奈良市がどのような「まち」になって欲しいか、率直な皆様方の意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2. 代表・副代表挨拶

過日文書にてお知らせしたが、ワークショップの代表は井上雅由委員が、また副代表は岡野恵子委員と田川嘉隆委員が選出された。一言挨拶をいただく。

（井上代表）この会では皆さんの意見を十分に拾い上げていきたい。皆さんの多様な意見を活かしていきたいと考えている。自由な意見を出してもらうのも大切だが、それをみんなだてまとめていくのも大事な仕事。ですので、各分科会で思い切り意見を出していただき、それをまとめていくという事についても頑張ってください。精一杯、代表としての役割を果たしていただきたい。

（岡野副代表）奈良の個性を活かした、皆で一人も欠けることなく、計画を策定できるように取り組んでいきたいと思う。

（田川副代表）精一杯応援したい。パソコンは大変得意なので、それを活かしてやっていきたい。

3. アンケート調査結果報告

市民及び事業所アンケートの調査結果について、ジャパン総研の大川氏より説明。市民アンケートの有効回収率は48.1%。時間の都合上、要点をまとめて説明する。（詳細については、資料2を参照）

【質疑応答】

・問題はアンケートをどう評価し扱っていくか。3月11日に未曾有の大災害が襲っている。世界的な問題に波及しつつある。地震、津波、原発の放射能汚染などの背景を受けて、市民の感覚は大きく変化している。価値観の変換が図られるべき。従って、アンケートに関してそれなりの評価はするが、そのまま取り上げる事には反対。地球温暖化を例にとっても、温室効果ガス25%削減は厳しい。

今やチェルノブイリ原発事故と同じレベルにまでなった。大地震などが起これば、文化遺産などは壊滅状態になるであろう。行政、学者は想定外と云うが、想定外は言い訳。今までのエネルギー政策の見直しは必至。そういう様な状況を十分踏まえた上で今後基本計画を協議していくべきではないだろうか？大災害が起こった後の環境問題を考えるべき。

⇒2月のワークショップ全体会議から2ヵ月空いている。そのちょうど中間に東日本大震災（以下、「3. 11」とする）が起きた。そういう意味合いで、2月と4月の思いは、かなり変わってきている。それについて、後半の1時間で話していただけたらという思いがある。

・私も基本的に、その意見に賛成。3. 11以降、日本の社会全体の意識が変わったのではないか？これを踏まえて考えるべき。そこで、私はアンケート調査もう一度行う方が良いと思うが如何か？

⇒アンケート調査は3. 11以前での調査という認識で抑えていただきたい。もう一度やるとなれば、全体的な計画のスキームが変わる。このアンケートはあくまで地震前の話。その後の意識の変わり方は、市民も行政も同じだろうと思う。

温室効果ガス25%削減という話を去年はしていた。震災等の事も加味すると今年下手をすれば、15%という目標値も出てくるかもしれない。しかし、基本計画は策定していかなければならない。

色んな変化に応じて目標値も変わると思うので、それに対応するようなPDCAをやっていく。

・アンケート中にある表の中の平均は？加重平均か、算術平均か？またアンケートの15、16ページで表されているSA及びMAの説明は？なぜSAもMAも962で同じ値になっているのか？

⇒平均は加重平均で計算している。また、SAは「単数回答」を、MAは「複数回答」を表しており、15及び16ページで同じ値（962）になっているのは、Nはあくまで総数であるから。全体の母集団を示すものである。

4. 平成23年度の策定スケジュール等について

事務局新井より説明。（資料3参照）

■策定スケジュールについて

4月13日及び5月11日の2回の分科会で、各分野の将来像の検討を行ってもらおう。そして、5月末以降の3回の分科会で市の各担当課を呼んで、環境調整会議を開き、より具体的な話しながら環境基本計画に基づく施策の調整を行う。それが終わり次第、各分科会の話から総論の部分に入っていきたい。そして、9月の末までには素案を作成し、10月の終わりには、これについて環境審議会の諮問にかけていくと共に市民のパブリックコメントも求めていく。

来年の1月からは、部分的にはなるが条例改正も視野に入れて、3月議会にかけていく。

またスキーム（案）でいくと、審議会の諮問・答申は10月なので、秋頃まで当ワークショップと環境審議会とが何の接点も持たない事になる。これについては、事務局と審議会とで色々話をしているところだが、今年の夏頃には、何らかの形でワークショップと審議会との接点を設けられればと考えている。これについては、固い会ではなく、懇親会や懇話会という形で行いたい。そこで、ワークショップの皆さんの思いを伝えていきたいと思っている。

また、これとは別メニューになるが、奈良市の自然環境調査を今年の3月頃から始めている。市内全域は難しいので、定点調査によるもの。環境教育の一環に繋げていき、小学生にも後々に手伝ってもらえるようなものを作れたらと考えている。

■分野別将来像の検討について

今回と次回の分科会で何をするかについて説明。(資料1、資料4参照)

平成22年度に行った問題点の検討及び課題の整理をふまえて、分野別将来像を描いてもらう。

今までの計画では、全体像があってそれに続く基本目標が7つあった。しかし、今回は各分野に分かれてワーキングを行っているので、分科会ごとの将来像をそこに付け加えていきたい。

これの具体的なやり方については、資料6を参考にして、今回と次回の分科会とで分野別の将来像を描いて欲しい。また時間内だけでは、まとめきれない事も考えてワークシートを用意している。各自ワークシートを4月28日までに事務局へ提出し、事務局で取り纏めて次回5月11日の分科会までに委員の皆さんに提供する予定。次回はこれを踏まえて論議し、分野別将来像を描いていただき、後半で分科会の発表を行ってもらう予定。

今回は3.11の事も話しつつ、将来像の取っ掛かりについて協議していただければと思う。

■分科会リーダー・サブリーダーの役割について

分科会のリーダー・サブリーダーの役割について再度確認しておく。リーダーは分科会の進行、サブリーダーはタイムキーパーの役割、市の職員2名の内1名は記録係で役割をきちんと行っていく。

また、ジャパン総研については、これまでは分科会に参加していたが、秋までの素案作りに時間も取られるので今年度については冊子作りに専念してもらう。これからは、リーダー、サブリーダー、市の職員、ワークショップ委員の皆でワークショップを行っていく。

【質疑応答】

- ・資料4の「望ましい環境像」と「基本目標」、「基本方向」とはどう重なるのか？

⇒今回は、「望ましい環境像」と「基本目標」との間について考えてもらいたい。分野別の将来像を検討しながら、基本目標と基本方向がそれに合っているか考える。その際、少しイメージが違うという事については後で変更云々を考えていく。

最近の流れでいくと、計画でよく使われるのは「低炭素社会」、「循環型社会」、「生物多様性」、「参画・協働」で、他市でもよく入ってきている。そういうイメージに変えていくのも一つであるし、今から10年後くらいを目指した形で書いてもらうと、よりわかりやすいのではないかと考える。

5. 分科会

資料5などを参考に各分科会で再度、課題の整理を行った。その後、分野別の将来像について話し合った。今回の分科会ごとの協議内容の詳細については、別紙「分科会の記録」を参照。

6. その他

事務局新井より補足説明。資料3の分科会の日程で5月末以降、日に幅を持たせている。これは、事務局サイドも他の分科会を見たいという思いがあり、総論の部分を意識し、全体を見たいので日程の幅を設けている。

次に、事務局村井より事務連絡。

- ・ふりかえりシートは4月20日（水）必着で事務局へ。今回は、今後の通知等にメールを活用することについて尋ねているため、全員提出をお願いしたい。
- ・分野別将来像ワークシートは、4月28日（金）必着で事務局へ提出。
- ・次回の第6回分科会は、5月11日（水）午後7時から、市役所中央棟6階正庁にて行う。

【その他質疑応答】

- ・アンケートについて、集めるだけ集めて奈良市は返事を全くしないのか？意見だけ求めて回答しないのはどうだろうか。協力者に対して失礼でないか。

⇒無記名アンケートになるので、また総数もかなりのものになるので個々の回答ではなく、ホームページ上での公開回答という対応をさせていただく。

- ・奈良市地球温暖化対策地域協議会から、温暖化対策の施策の1つとして社会実験の紹介があった。（委員にチラシ配布）

これだけ見ても中々解りにくいので、社会実験に関する事前の説明会を5月28日に行う。その後5～10世帯のグループを作って参加してもらい1年間の削減活動を行ってもらおう。そして、削減量に応じてkgあたり3円で買い取る。経済的なインセンティブを付けて、市民の温室効果ガス削減の活動を支援していく。

これについて、ご理解いただけたら、2点協力をお願いしたい。

- ①活動には参加できないが、手伝いや協力できる方
- ②グループを作り参加して、実験に参加できる方